

# 宮崎アカデミーロータリークラブ会報

第 159 回例会 2025 年 8 月 26 日

■例会場：ホテルきよたけ

会長 梅田 裕樹 副会長 水居 徹 幹事 大地 寛行

## ■ 会長挨拶 梅田 裕樹 会長



ビジター参加者

ガバナー補佐、藤堂孝一さん

日向ロータリークラブ会長 徳永博樹さん紹介

ホテルきよ武の食事付例会について

ホテルきよ武の紹介

田中支配人の紹介

会長幹事会について

各クラブの会長さんの取組の報告

例として、会員の出迎えを行ったり、卓話の内容などを決めたり、各クラブそれぞれに工夫しながら居心地の良い例会を考えている。

## ■ 幹事報告 大地 寛行 幹事



① 国際ロータリー第 2730 地区事務所より

2026-27 年度派遣青少年交換留学生募集ちらしのお知らせ

② 高鍋ロータリークラブより例会場及び事務局移転のお知らせ

③ 西本ガバナーより 2026 年ロータリー国際大会《台湾・台北》における地区ガバナーナイトならびに姉妹地区 (3482 地区) との交流会についてのお知らせ

④ ロータリー囲碁同好会より秋の「第 23 回ロータリー全国囲碁大会」のご案内

⑤ ガバナー公式訪問時のドレスコードはジャケット着用ノーネクタイ

⑥ 2025 年 8 月為替レートは 149 円

⑦ 2025 年 7 月 22 日ロータリー財団 3,223 円、  
米山記念奨学金 2,748 円

⑧ ガバナー月信回覧(翌年度から各自一部配布へ変更)

## ■ 出席報告

出席向上・会員増強選考委員会

吉田 博文 委員長



|      |        |
|------|--------|
| 会員数  | 26 名   |
| 出席者数 | 22 名   |
| 欠席者数 | 4 名    |
| 出席率  | 84.62% |

第 158 回例会修正

|        |        |
|--------|--------|
| 会員数    | 26 名   |
| 出席者    | 18 名   |
| メイクアップ | 1 名    |
| 修正出席者数 | 19 名   |
| 修正出席率  | 73.08% |

## ■ ニコニコ報告

瀧 伸一 会員

人生初の舞台に挑戦します！

演目は、シェイクスピア作・喜劇「十二夜」をアレンジした『あらかるとの十二夜』です。6 月のオーディションを経て 7 月に出演者の顔合わせ、そして 2 週間前から本稽古が始まり、今週末 31 日に本番を迎えます。第一幕・第一場（公爵の邸）において、私が演じるオーシーノ公爵の台詞から始まる冒頭の一節をご披露します。ぜひ劇場に足をお運びいただければ幸いです。



## ■ 卓話

山口 和宣 会員



皆さま、こんにちは。国立大学法人 宮崎大学、学び・学生支援機構 総合知教育企画部門の山口和宣と申します。本日は、このような貴重な場でお話しする機会をいただき、心より御礼申し上げます。私は副部門長／特別准教授として勤務しており、本日のテーマは「リカレント教育と SPARC、そして私が考える“総合知”と“利他”の実践」です。（スライド：本日の内容）

流れは 3 点です。

1) 簡単な自己紹介

2) お伝えしたい内容——リカレント教育と SPARC

3) まとめ

本題に入る前に、2025 年 3 月 11 日にロータリークラブ入会承諾書を受け取り、本日この場に立っていることを嬉しく思います。先日宮日朝刊（8 月 24 日）にも触れていただきました。

私は何者か

改めまして、山口和宣（やまぐち かずのぶ）49 歳です。家族は妻と 4 人の子ども（うち大学生 3 人）で、家族は仙台、私は現在宮崎で単身赴任中です。出身は札幌。先祖のルーツは仙台藩・弘前藩・加賀藩に遡ります。学部は某私立大学の法学部、社会科の教員免許（中学社会・高校地理歴史・高校公民）も持っています。その後、東北大学大学院 医学系研究科で修士（2015）・博士（2018）、SBI 大学院大学で MBA（2022）を取得しました。

職歴は外資系製薬で 24 年間（アストラゼネカ 19 年、ジョンソン・エンド・ジョンソン 4 年）。うち 10 年間は本社メディカルアフェアーズ部門の責任者を務め、2023 年に株式会社世界のカケハシを設立。小説家（ペンネーム：阿野似 益也）としての顔もあります。2024 年 10 月からは宮崎大学の教員として着任。趣味は筋トレやスキー、学生時代はボディビル、YOSAKOI「平岸天神」にも参加していました。都会より地方が好き——これが私の根っこにあります。

私の軌跡と“生き抜く力”

私の人生は決して平坦ではありません。1989 年に父を突然失い、大学時代は深夜のコンビニを掛け持ちして学費を捻出。就職氷河期に製薬会社へ入り、単身赴任を繰り返しながら働きながら修士・博士・MBA を取りました。東日本大震災も仙台で経験。ヘッドハントの破談や起業を経て、今は宮崎で教育に携わっています。私を支えたのは「運と縁とネットワーク」、そして折れても戻るレジリエンスでした。だからこそ若い世代には、無闇に「つらい思いをしろ」とは言いません。大切なのは立ち直る術と予防する術を知っていること——この実感が、後でご紹介する講座につながります。

リカレント教育——働きながら学ぶ当たり前を、日本の当たり前前に

リカレント教育は「大人の学び直し」。私は単身赴任で働きながら大学院とビジネススクールに通いましたが、日本全体を見ると、学位や資格取得を伴う“フォーマル”な参加率はわずか 1% に留まっています。学び直しの参加率が高い国ほど労働生産性も高いという傾向がある中、日本は参加率も生産性も低位。ここに大きな改善余地があります。背景には「学習機会の不足→スキル更新の遅延→生産性停滞→賃金停滞→若手流出→競争力低下」という負のスパイラルがあります。加えて、日本では大学院や MBA がなくても年功的に昇進できるケースが多いという現実も、学び直しのインセンティブを弱めています。“学びは投資である”という共通理解を、社会・企業・個人が共有できるかが鍵です。

解決の糸口は 3 つ。

- 1) 働きながら学べる柔軟設計（夜間・オンライン・短期集中的モジュール）
- 2) 地域課題を題材にする学び（学びがそのまま地域の価値に）
- 3) 成果の見える化（昇進・職務拡張・副業連携）

宮崎からこのモデルを形にし、“学び直しの当たり前”を日本の当たり前前にしていきたいのです。

生き抜く力養成講座——レジリエンスを地域の標準装備に  
今の日本にはレジリエンス（折れにくさ／戻る力）が足りない。宮崎県の資料を見ても、心の折れやすさが社会問題としてあらわれています。だから私は、「生き抜く力養成講座——どこでも強く生きる力」を立ち上げました。久保敦子会員の宮崎県看護協会様、富山様の宮崎県男女共同参画センター様に後援を賜っています（本当にありがとうございます）。内容は、心身のセルフケア、学び直し、理念、異文化理解など、現実の生活に直結するもの。失敗しても大丈夫という空気と、戻るための技法を手に入れてもらいます。

“総合知”と“利他”——学びを人と地域のために

私の部門名にもある総合知とは、理系と文系の垣根を超えて価値を生む知のあり方です。ただし、方向性や目的が利己的なら意味がない。利他に使われてこそ、知は社会を動かします。私はその歴史的モデルとして、飢肥藩出身の安井息軒（1799-1876）に学んでいます。息軒は儒学のみならず洋学・政治・農学・医学にも通じ、谷干城や陸奥宗光ら 2,000 人以上の人材を育てた“知の巨人”です。地域では、宮城県黒川郡大和町の『國恩記』に見る“私財で地域を救った人々”の実践もあります。いずれも学びを利他的に使うという共通項を持ち、現代の私たちの行動指針になります。

SPARC——地域連携を駆動する人材育成プログラム

そこで私が宮崎で進めているのが、SPARC（Supereminent Program for Activating Regional Collaboration）です。目標は明快で、「地域を活性化する人材を一人でも多く育てる」こと。ケース提供、現場実習、メンタリング、修了後の活躍の場づくりまでを含む実践型プログラムです。企業・団体の皆さまのご協力を心からお願いしたい。受け入れ、課題の提示、共同研究の機会づくり——どの形でも構いません。宮崎から“学び×地域”の好循環を回すために、ぜひお力をお貸しください。詳細はパンフレットをご覧ください。

私たちが変えたい“日本の数字”

最後に、私が教育と地域連携で変えたい数字を 4 つだけ。

- 4.6 兆円：医薬品の貿易赤字（2022 年）
- 38%：食料自給率（2023 年）
- 1.15 未満：合計特殊出生率（2024 年）
- 21,837 人：自殺者数（2023 年）

これらは一見バラバラですが、根っこは人づくりと地域の基盤づくりにあります。学び直してスキルを更新し、総合知で分野を横断し、利他で価値を循環させる。SPARC はその実践です。宮崎から、数字を一つずつ良い方向に動かしていきましょう。

本日のメッセージは 3 つだけです。

- 1) 働きながら学ぶ“リカレント教育”を、宮崎から日本の当たり前前に。
- 2) “総合知×利他”で、学びを人と地域のために使う。
- 3) SPARC で、地域連携を駆動する実践人材をともに育てる。奉仕の理想を掲げるロータリアンの皆さまと、ぜひご協力賜りたいと思います。ご清聴、ありがとうございました。